

自 己 評 価 表

平成28年度

愛媛県立今治工業高等学校
学校番号 17

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的國家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点目標	ものづくりから人づくりへ — いい汗をかこう — 足元をしっかりと見つめ、幅広い視野で時の流れを多面的にとらえよう。 1 ものづくりを通じた豊かな人間形成の推進 2 分かる授業の展開と基礎・基本の定着 3 基本的な生活習慣の確立と自律心の育成 4 部活動の充実と個性豊かな人間の育成 5 各種資格取得の奨励とキャリア教育の推進 6 地域社会へのボランティア活動の推進
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
工業教育	SPH・次代を担う地域産業技術者育成事業の充実	地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育を推進し、専門的職業人の育成を図る。			
	ものづくり教育の推進	各種競技大会に積極的に参加し、外部支援団体・企業・技能士等との連携を図り生徒・教員の技能技術の向上を図る。			
		知的財産教育をとおして、新しい物を作り出す豊かな発想力、考え抜く力の育成を図る。			
	愛媛のものづくり企業「すご技」企業を訪問し、工業科教員のスキルアップを図るとともに、専門教育を充実させる。				
資格・検定取得の奨励	検定試験に積極的に挑戦させるなど、資格取得指導の充実を図る。				
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着	生徒の実態を把握し、基礎学力の定着と自主的な自己学習力の育成を図る。			
	教科指導の充実	校内外の各種研修会に積極的に参加し、教員の実践的な指導力の向上を図る。			
		生徒による授業評価を実施し、授業内容と指導方法の改善を図る。			
	図書室及び図書利用の促進	図書委員会の活動を活性化し、図書室利用の啓発に努める。（生徒一人当たり年間2冊以上貸出）			
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動（運動会・今工祭・クラスマッチ等）への積極的参加と自主的な運営に努める。			
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上、県総体出場140名以上、四国大会出場4競技以上を目指す。			
	ボランティア活動の推進	各種ボランティア活動への積極的な参加を促し、奉仕の心の育成を図る。			

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	問題行動の防止	教職員の共通理解をこれまで以上に図るとともに、保護者との連携も強化し、問題行動の未然防止に努める。			
	安全教育の推進	ヘルメットの着用を定着させることを通し、登下校中の交通安全意識およびさまざまな場面における「命を守る」意識の高揚を図る。			
	基本的生活習慣の確立	生徒の進路実現のために、挨拶、身だしなみ、時間及び健康の管理に関する指導を継続して行い、基本的生活習慣の確立を図る。			
教育相談	充実した学校生活の支援	ホームルーム担任、養護教諭、科との連携を密にし、生徒の悩みの克服を支援する。			
		特別な配慮を必要とする生徒の実態把握に努め、学校生活を支援する。			
人権・同和教育	現職教育の充実	生徒の自己実現に向け、14項目の共通理解・共通実践を図る。校内外の研修に積極的に参加し、自らの人権感覚を磨くと共に、あらゆる教育活動において生徒の人権意識を高めようとする教員集団作りを目指す。			
	望ましい集団活動の推進	人権委員会を活性化し、人権集会を充実させ、差別を許さない集団作りを目指す。市内各校との交流学習を通じて、学んだことを生徒全体にフィードバックする。			
進路指導	進路意識の高揚	進路希望調査や進路相談等を通して、生徒一人一人の適性や能力の把握に努め、より具体的に進路に対する意識を高めさせる。また、各種行事を通して望ましい生徒の職業感や勤労観を育成する。			
	就職・進学指導の充実	事業所や上級学校との面談を通して求める人材や能力を把握するとともに教員・生徒に情報提供し、キャリア教育の充実を図る。学校斡旋による就職内定率100%、進学希望達成率100%を目指す。			
情報管理	ITの活用及び情報モラル教育の充実	授業における各教科の有効的なIT活用方法や情報モラルに関する効果的な指導方法を研究する。			
	セキュリティ及びデータ管理の徹底	個人情報漏えい防止対策、セキュリティに関する啓発を強化する。			
保健厚生	健康管理能力の育成	心と体の健康を適切に管理する能力を育て、自ら健康的な生活を送ることができる生徒の育成に努める。			
	防災意識の高揚	防災学習、避難訓練の内容を見直し、防災意識の高揚に努めるとともに、安全点検を徹底して、施設面でも危機管理を行なう。			
渉外広報	P T A 活動の活性化	生徒数の減と共に保護者の数も減っているが、学校行事やPTA活動を現在の活気あるものに維持する。			
	きめ細かな情報提供	学校新聞や毎月のPTA通信の内容が形骸化しないよう、新しいものを導入する。 体験入学や出前講座、ものづくり教室など、さまざまな活動を通して本校の魅力を外部にアピールするとともに、SPHなどの取組についても情報を発信する。			

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。